

第136号 令和4年10月15日発行

あまうが通信

あまうが(アモーガ)とは真実

発行所 ひょうたんでら融通尊寺 〒651-0093 神戸市中央区二宮町4-8-14

電話078-221-5136

発行人 住職 宇喜多 智弘(うきた ちこう) メール yuzusonj@gmail.com

FAX 078-221-9256

HP <https://www.yuzusonji.or.jp>

携帯 090-1480-4400

お十夜法会のご案内

日時 11月15日(火曜) 午後2時より 場所 融通尊寺本堂

お十夜精霊回向料

1霊につき3,000円

申込〆切 11月10日まで

申込み方法

同封致しました緑色の精霊回向申込書に必要な事を記入して、回向(えこう)料を添えてお申込み下さい。先祖代々の申込みは、その家の総ての御先祖に広く供養したい場合で、先祖代々で1霊と数えます。

1霊ずつ戒名を書いて申込みと、その戒名の御霊に特に供養することに成り、回向の証文には戒名が書き記されます。戒名は解からないが特にご恩になった方・お世話になった方に供養したい場合は、そのかたの名前を書いて申込んで下さい。水子供養の場合は、〇〇家水子と書いて申込んで下さい。

申込は、①お寺に持参 ②住職に手渡し ③郵送 の三つがあります。

回向料の納め方は、①申込時に手渡し ②郵便振替(口座番号01110-3-84884)

③現金書留 ④法会の当日に持参(その場合、必ず事前に精霊回向申込書を郵送するか FAX 078-221-9256 してください) の四つがあります。

お十夜(じゅうや)と言うのは亡き人や御先祖さまへの感謝の法会(ほうえ)です。

精霊回向申込みはする、しないは自由です。申込まれた方はなるべくお参りされた方が良いでしょう。申込まれて出席の方には当日回向の後、証文をお渡しします。申込まれて欠席でもお寺の方で回向(えこう)して後程、証文をお送りします。回向の証文は、1年間お仏壇などにおまつりしてください。古い証文はお寺に納めて下さい。

この日は皆さまの御先祖さまや亡き方々(みたま)が、お寺にいられて皆さまとお会いするのを楽しみにしておられます。そういったお御霊さまに感謝の心で手を合わせ、おひかりとお香(たむ)を手向けると、不思議なことに本当に気分がスーッとしますよ。

どうか御家族お揃いでの参りを、お待ち申し上げます。

【良い思い込みで二日酔い知らず】と、お婆さんの逸話

「これはいけないことだ」「こういうことはやってはいけない」などの、社会通念というものがあります。これは人間が社会生活を営むうえで定められた暗黙のルールですから、当然守るべき事柄です。しかしそのルールにがんじがらめに縛られて、一種の脅迫観念に陥ってしまうこともあります。

この脅迫観念を「悪い思い込み」と言います。「仕事がうまくいかない」「こんなことじゃ身体を壊すんじゃないか」「今日はついてないなあ」などと、つつい物事を悪いほうにとらえている人が、じつに多いと思います。

しかし、そんなことはありません。「必ずうまくいく」と思い込むクセをつければ、必ずうまくいくのです。

極端な例かもしれませんが、たとえばタバコは身体に悪いと言われていています。でも私は「これはビタミン剤なのだ」と思って喫煙しています。これが「良い思い込み」です。良い思い込みをしていけば、身体に悪いことなどありません。これと反対に、「ああ、また吸っちゃった。ダメだな、オレは」などと思いながら喫煙すると、それこそ本当に健康を害してしまいます。これが「悪い思い込み」です。お酒にしても同じです。私は、「お酒で肝臓がきれいになる。胃腸もスッキリ。うん、健康だなあ」と思って飲んでいきますから、すこぶる健康ですし、二日酔いもありません。

内尾政明『オーラが輝く魔法の言葉—いますぐ始める“メンタルヒーリング”』より

昔、あるお婆さんが、お坊さんから聞いて唱えていた言葉が、

「大麦小麦二升五合 オオムギコムギ、ニショウゴンゴウ」だった……。

本来、この言葉は

「応無所住而生其心 おうむしよじゅうにしょうごしん」が正しい。

(出典は、仏教の「金剛般若経」)……

「応(まさ)に住(じゅう)する所無くして、而(しか)も其の心を生ずべし」
語意は「とらわれない心」のことで、人間は何か心に置いてしまうと、それに囚われ、それが苦しみや悩みの元となります。それを引きずらないことが大事で、心をどこにも置かなければ、どこにも心はあり、それが人生を軽妙に生きるコツ。

これを聞いてお婆さんは、「これを唱えれば、靈験あらたかで、毎日唱えれば願い事が叶う……」と、

……「出る息、吐く息(調息)」に、この言葉を唱えようとして、間違っ

オオムギコムギ、ニショウゴンゴウ

と、覚えてしまった……ところが、靈験が現れたのは、それから……

病人を前にして、「オオムギコムギ、ニショウゴンゴウ」を唱えると、ア〜ラ不思議、マア不思議っ……！？なんとっ、病気が治るようになった……

それが評判を呼び、多くの人たちがお婆のもとに集まってきた……

これを聞きつけた坊さんが、聞くとどうもおかしいので

「お婆さん、それは違う。正しくは応無所住而生其心というのだよ」と言った。

そこで、お婆さんは今度は正しく「応無所住而生其心」と唱えるようになった。だが、それ以来、病気を治すことが出来なくなったとさ……もちろんオオムギコムギ、ニショウゴンゴウと唱えても効き目は消え失せてしもた。